

2022 年度 4Q 決算説明会 主な質疑応答

1. 「グループ経営方針 2023」における「総投資枠 5000 億円以上」の趣旨・狙いについて。
 - ・ ライフサイクルやバリューチェーン視点で、成長事業と育成事業への経営資源の大胆なシフトを実行し、事業の変革に取り組む。
 - ・ 成長事業と位置付けた航空エンジン・ロケット分野において、新整備拠点の構築・素形材事業の拡大を含む航空エンジン事業のバリューチェーンでの取り組みや、軽量化・電動化といったカーボンニュートラルな次世代航空機に向けた新たな技術開発、ロケット事業の強化、打上げサービスやデータ利活用などへの投資を行う。
 - ・ 育成事業としてのクリーンエネルギー分野では、ガスタービン等での利活用のみならず、燃料アンモニアバリューチェーンそのものへも投資することで、事業の持続的な成長を目指す。

2. 営業利益率目標について、昨年度までの「プロジェクト Change」の 8%に対して、「グループ経営方針 2023」は 7.5%と若干下がっているが、目標達成に向けた考え方を聞かせてほしい。
 - ・ 「グループ経営方針 2023」では、人への投資、研究開発および構造改革に積極的に取り組むべく、その費用を織り込んだ上で、適切な利益目標を設定した。7.5%を必達目標として取り組んでいく。

3. 「グループ経営方針 2023」期間中、特に大きな利益増が見込まれている産業システム・汎用機械について、どのように考えるか。
 - ・ ライフサイクルビジネスの深化と進化を通じて規模を拡大することが、利益率の向上につながると考えている。
 - ・ 車両過給機事業については、楽観的な見通しは持っていないが、新規案件の受注も獲得できており、少なくとも今後 3 年間に限っては、相当の事業規模が見込まれる。

4. 「グループ経営方針 2023」において、航空・宇宙・防衛は増収額に対して利益の伸びが小さいように感じるが、どのような要因があるのか。
 - ・ 航空需要は 25 年度にかけて回復が続き、コロナ前水準に戻っていくが、その回復度合いは緩やかになっていく見通し。
 - ・ その中で、スペアパーツ販売による利益の緩やかな回復が続く一方、研究開発への積極的な投資に加え、新製エンジン本体の増産も続くため、その採算性への影響も織り込んでいるところである。

以上